◆新会員のひと言◆

私を育んだ「秋田」

秋田市観光クチコミ大使・
藤里町白神観光大使
浅利　香津代

秋田県秋田市の駅前で昭和19年に生まれました。物心がついた頃、家は「バナナ色付け師」の看板をかけた果物屋でした。緑色のバナナが台湾から入って来、爺（祖父）が室（ムロ）で色と甘みがついた熟成したバナナを駅前の市場で競りにかける仕事を続けながら果物屋から食堂、そして旅館を営んでいく中で私は育てられました。

４歳の頃、浅利の長女・母栄子が病死、終戦で戦場の中国から帰国した婿の父は戦争体験と妻の死に心痛め岩手県の実家に帰り、私を明治生まれの爺と婆があづかり、戦争という時の流れで私の命の出発が決まりました。

市会議員も務めた爺のもとに若い方々が集まり、家は「秋田は～」「秋田が～」「秋田を～」といった言葉がいつも飛び交っていて、私の心身に刷り込まれていったのです。

６歳より、婆も母も習っていた日本舞踊と三味線を稽古。幼稚園と小学校の学芸会で役を貰うことで自分の居場所ができ、一人っ子の自分に友達ができる楽しさを体験し、中学高校と演劇部に入部。ついには18歳の春、“感動”を探しに日本大学芸術学部演劇学科に入学しました。

そして今年、女優生活51年目！　舞台を中心に映画、テレビ、朗読、講演、ナレーションという仕事の中で“感動”を体感、失望・落胆もしての繰り返しの日々。その生業を支えたのは私の奥底に潜む「秋田」でした。何百年も使われてきた秋田の言葉で風土・風俗・歳時の文化が暮らしの中で豊かに在り、家族・親戚を、秋田の土地を、日本のお国を信じ、暮らしを助けてくれる自然の恵みと人との絆に感謝し、“お上の為さる事に間違いはねえ!”と従い、智恵と工夫で衣食住を辛抱し、芸能を僅かな楽しみとし、笑いを忘れず生き続けたその強さ、気高さ、清さを想うと、心の底から「秋田」が私を生かしてくれているのがわかるのです！

この度、全国ふるさと大使連絡会議へのお誘いを受け、大切な故郷をお持ちの全国の方々と出逢える機会をいただいたことは大変有りがたいです！　今日まで「秋田！秋田！」を連呼し、秋田の先人を掘り起こし顕彰しながらの朗読や、実話を舞台化した全国巡演をしてきました。この会へのお誘いは、その秋田弁での表現に感動して下さった大勢のお客様からの贈り物と思います。

今日の日本を築いてきた先人をそれぞれお持ちの皆様と命のバトン渡しを中継ランナーとして、ご一緒に果たしていければ嬉しい限りです。皆様のお力を学ばせて頂けますよう、よろしくお願い致します！